

墨の三本木

字花の木なる墨染の桜、字馬場なる銀杏、全所熊野神社の松樹を称して言えるものなるが墨染の桜はその落花に先ち黛色を帯びると言い銀杏樹は本区鎮守の本尊を守本尊として諸国行脚中本区に於いて客死せる相原文治郎の墓木にして周囲二丈に及び明治初年に於いて伐採せられたり墨染の桜は既に枯死し独り熊野神社の松のみ生存したりしも惜い哉明治四十一年神社合祀に際し伐採し去られたり。その周囲二丈に余り形状絶佳なりき字大広台なる東伝院は現在よりも此等名木に接近したる位置にありしに因み、称して本木の寺と謂うに至れるが如し。